

チーム紹介ページと合わせて超人気のこのコーナー。応募してきている方! 順番に撮影していますので、もう少々お待ち下さいね。今回は若さいっぱいマスタング。オーディオ装着率が高いチームでしたが、皆どんな曲聞くのかな〜?



MUSTANG

SPEC

JET'Sドラッグボンバー、WirusWinマフラー&エアクリーナー、activeハンドルライザー、キジマLEDテープ、Rockfordスピーカー、ワンオフオーディオインストール (HOTWIRED)、インナー塗装、スピーカーボックス、ウーファーボックスetc



フェイスは人気のドラッグボンバーシリーズをチョイス。精悍な顔つきにフェイスメイクできる。

CJ44SKYWAVE

前田

超大作オーディオは必見

見た目からも分かる超オーディオカスタムは、名古屋のホットワイヤードによって製作されたもの。オーディオの得意なショップが製作するだけに、前田君の車両が、スゴイことになっていますよ。今度音楽聞かせてね。

メットインには整然とアンプが設置されている。音響をより高音質、大迫力のものにする。

オーディオは全てホットワイヤードによるもの。ワンオフによるオーディオのインストールで得る音響は最高。

TSEVENTH



Shop: TOP MOST Machine: FUSION



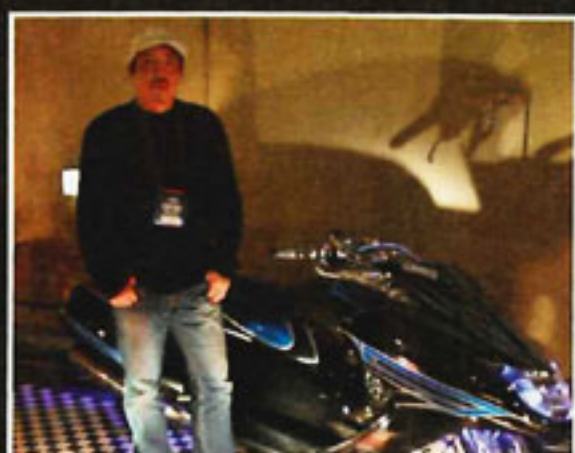
Shop: DRAGON FAITH Machine: Majesty 125 トライク



Shop: INFINATE Machine: Majesty, SKYWAVE, Majesty



Shop: HOTWIRED Machine: MAXAM



Owner: 山さん Machine: Majesty



Owner: たつや Machine: Majesty



Owner: ナル Machine: Majesty



Shop: MOTO SERVICE MAC Machine: Majesty

Kustomgarage INFINATE

惜しくも優勝には至らなかったが、圧倒的なセンスと技術を備え、随時ブース前は人だかりが出来ていたインフィネートのグリーンマジェ。先ほど本誌主催のカスタムコンテストに出展していた車両を一新から作り直し、新たなフルカスタム車両を作り上げてきたその努力に脱帽ですよ。



2nd



ディティールへの細部のコダワリは見事なもの。ロンホイした時に出るタイヤの出具合も計算されたかの様な絶妙な長さ。センスと技術を持ち合わせたハイレベルな車両だ。



BIKE SHOP RODEO

次のページでピックアップ!

X-5に遊びに来てね

P146
GO!



MOTO SERVICE MAC



1.近代的なフュージョンを製作してきたのは、トップモスト。絶えず人だかりが出来ていたこの車両が入賞できなかったのは、なぜ? 2.1日目のX5に来ていたオーナーさん達。寒い中お疲れ様でした。 3.九州のMISTは今回スポーツバイクでの参戦。特殊ペイントを施したグッドな車両でした。4.見た瞬間度肝を抜かれます。しかし、これだけフルカスタムしてあって、この車両は自走で会場入りしていますからね。 5.X5に登場していたチーム「プラチナム」のメンバーたち。このチームのリーダーのナル君の車両が1位でした。 6.電装がスゴい。モニターがいくつ付いているのかワカラナイよ。 7.やっぱキャンギャルっしょ! カスタムショーを華やかに飾ってくれました。 8.フルカスタムにはかわいい子が良く似合う! ちなみにこのスクアのオーナーさんですよ!



X5ってどんなの?



1. スクーターのオーナーも沢山いました。友達やチームの皆で行くことが楽しいですね! そして、駐車場がミーティングになったり(笑) 2. やはり迫力のある4輪フルカスタムは見ているだけでも、驚くばかりです。最近の流行としては、インポートカーや、国産車のラグジー系が多く見受けられます。 3. これはホイールのリムの部分を塗装して、なおかつ塗り分けをしている。やはりカスタムが進んでいる4輪は見習うカスタムがごろごろしています。 4. カスタムショーと言えば、やはり忘れてはいけないのがキャンギャルでしょう。今年は例年に比べてすこし少ない感じはありましたが、イベントには欠かせません!

X5

C R O S S F I V E

寒さが際立つこの季節、名古屋の風物詩となりつつあるイベントに、今回は自走で参加してみました。久々のイベントにわくわくする気持ちを抑えきれずに、会場へ入ったその中は、未知なる車両や、ド肝を抜くような手法を凝らした車両であふれ返っていた。これは何か、見つかるかも? 王道カスタムショー「X-5」へ潜入してきました。

2008年12月6日、7日
会場/ポートメッセ名古屋

Photo/編集部 Text/高橋真陽

2日に渡る超強力カスタムショー

関西と関東のほぼ真ん中に位置する名古屋。その名古屋で、12月6日、7日の2日間にわたり、「X-5」が開催された。「X-5」は今回で14回を数え、毎回数々のショーカスタムを一般ユーザーに公開している。スクーターの出展はもちろん、スポーツコン、ラグジー、トラッキンなど、4輪カスタムも集結し、カスタムをアピールし優勝を争う。「X-5」の醍醐味と言えば、ショーカスタムを施した4輪や2輪が一同に会したド迫力なディスプレイにある。そして、「X-5」はただの展示会ではなく、イベントであり、ショーであるということとが大前提だ。これは、イベント会場のレイアウトから、2日間に渡るスペシャルゲストのライブなど、トータルで楽しめるエクストリームショーとして、参加者や来場者全員が、イベントを楽しめるように配慮されているのだ。

でもやはり一番気になるのは、コンテストの結果だ。ビッグスクーター部門では、まず「どれだけカスタムしているか」が重要なポイントになる。そして、「ディスプレイのこだわり」も鍵を握る。いくら凄い車両ができて、ディスプレイ、いわゆる車両の見せ方や飾り付けが伴っていないと、審査員の視線を奪えないということだ。さらに審査ポイントはまだまだある。カスタムしている部分の露出も大きなポイント。見せたいところは、キチンと開けておくことが必要なのだ。他にも、いかに綺麗か? これは完成したクオリティももちろんのこと、ホコリや汚れなども無く洗車された直後ぐらいのキレイな状態の方が高得点をもらえるとのこと。そして最後は、いくらカスタムしていても、一点豪華主義だったり、バランスが悪ければ

賞には結びつかない。これらを踏まえた上で事務局が選出したシークレットの審査員が審査をし、入賞者が決定されるのだ。本誌が後援していることもあって、「審査員はトランススクーターのヤツラ」なんて噂も耳にしたが、僕は審査にはノータッチなんだ。

そんなお祭りイベントに今回参加したのが、茨城からは、優勝をさらったワイヤーホイール装着車を持ちこんだロデオ、埼玉からは、究極のフュージョンを製作してきたトップモスト(P20、23ページ掲載中)や、第3位に入賞した本誌ではお初となるモトサービスマック(P146ページ掲載中)、エムファクトリーでカスタムしているたつやサン、名古屋、大阪からは、ドラゴンフェイスや2位のグリーンマジエを製作したインフィニート、オーディオ、電飾満点のマグザムを製作したホットワイヤード、そして一般からGO TTYでカスタムしている山さん、九州からは、過去に優勝経験をもつミストが、スポーツバイクで参戦していた。カスタムショーというのは、2輪に限らずカスタムのお手本になる車両や手法がたくさんある。例えばオールペンに悩んでいるとき、運命的なカラーとの出会いがあるかも? などネタの宝庫なのだ。ぜひ一度は足を運んで、生のカスタムを見て勉強してみたいかがだろうか?

